

中部沿海州底曳漁場調査

担当者 主任研究員 豊 川 毅
技 師 沢 田 兼 造

I 調査目的

本県沖合の機船底びき網漁業は、年々その底棲資源減少により経営が不安定となつているので、新漁場の開発とその合理的な利用によつて同漁業の発展を図ろうとするものである。

II 調査内容

1. 調査漁場

北緯 $44^{\circ} \sim 46^{\circ}$ 、東経 $136^{\circ} \sim 138^{\circ}$ の各経緯度線によつて囲まれた海域のうち、ソ連領海 (12 哩) を除く海域であつて水深 500 m までの海域

2. 期 間

昭和 42 年 11 月 18 日～同年 12 月 16 日

3. 調査項目および方法

調査項目	方 法
イ. 魚種別分布状況	試験船幸洋丸 (121 トン 400 馬力) により 1 そうびき
ロ. 曳網可能漁場の把握	底びき網漁法で漁業試験をおこなう。

III 調査経過

昭和 37 年度以来実施してきた本漁場調査については、既に報告済であるが、要約すれば下記のとおりとなる。

- (1) 本漁場における主要な魚種は、タラ、スケトウダラ、ハツメ、ホツケ、ナメタガレイである。
- (2) 漁場価値の高いところは、沿海州沿いの水深 $200 \sim 350$ m、北緯 $44^{\circ} \sim 45^{\circ}$ にかけて存在し、その面積は広くない。
- (3) 盛漁期は、対象魚種によつて異なるが、概ね 12 月～ 2 月にかけて漁獲が多い。
- (4) 1 月は厳寒期でしばしば、結氷を見ることがあるが操業上の支障はない。しかし北西の季節風が卓越し、海上は、大時化となることがある。
- (5) 漁獲成積から見れば昭和 37 年の 1 えい網当り 998 Kg が最高で、 39 年に最低、その後 40 、 41 年と増大し、 41 年は 742 Kg であつた。

これから総合すると沿海州底びき漁場は特に利用価値の高いところとは思われないが、今までの調査によれば、少数の底びき船が盛漁期に操業するのであれば、十分採算がとれるのではないかと思われる。このような既往の調査結果から本年度は、漁期の拡大を 1 つの目標とし、従来余り行われなかつた 11 月中の試験操業を実施した。

しかし操業なかばにしてソ連警備艇により操業干渉を受け帰港するの止むなきに至り、更に 12 月に 1 航海を行つたが、これも同様ソ連警備艇の干渉を受け、操業を断念することになった。

IV 調査結果

1. 第1次航海は、42年11月18日から11月23日までの6日間実施した。18日青森港を出港，海上は荒れ模様であつたが一路漁場へ向け航行し，漁場到着は翌19日午前8時であつた。以後19日3回，21日5回，22日2回の計10回の操業をおこなつたが，22日第1回目操業中にソ連機が，西方から飛来し2～3回頭上約500mを巡回飛去つた。

その後約1時間後ソ連沿岸より警備艇と思われる船舶が近付き2回目操業中であつた本船に対して手振りをもつて帰港を指示した。この時の本船の位置はソ連領沿岸より約13哩附近であつたので，15哩附近まで航行し，操業の可否を問う手振りで合図したが，前の手振りと同様帰港を指示された。

したがつてこれ以上止めることは拿捕等の危険もあるものと判断し同日午前11時頃コースをSEにとり23日青森に帰港した。

第2次航海は，42年12月12日青森出港14日午前6時頃漁場到着，直ちに操業に入り，北緯45°-19' 東経137°-34' の漁場において3回操業を行つたが，漁獲皆無の状態であつたため漁場を南に移動すべく航行中，時化となり緊急入域の手続きをとつて15日9時頃北緯44°-42' 東経136°-18' の指定錨地に投錨仮泊した。

仮泊中午後2時頃及び午後7時頃の2回にわたつてソ連警備艇が近づき手振りで退去を指示した。

このため安全操業が確保できないものと判断して，12月16日早朝青森に向け17日同港に入港した。

2. 漁獲成績

第一次航海分

項目 魚種	漁 獲 量	百 分 比	1えい網当り	備 考
ホ ツ ケ	1,695 Kg	49 %	169.5 Kg	ムジナガレイ 約1,500Kg投棄
マ ダ ラ	1,402	41	140.2	
スケソウダラ	140	4	14.0	
ヒ レ グ ロ	160	5	16.0	
ハ ツ メ	20	1	2.0	
計	3,417	100	341.7	

(第二次航海分なし)

3. 操 業 漁 場

別紙のとおり

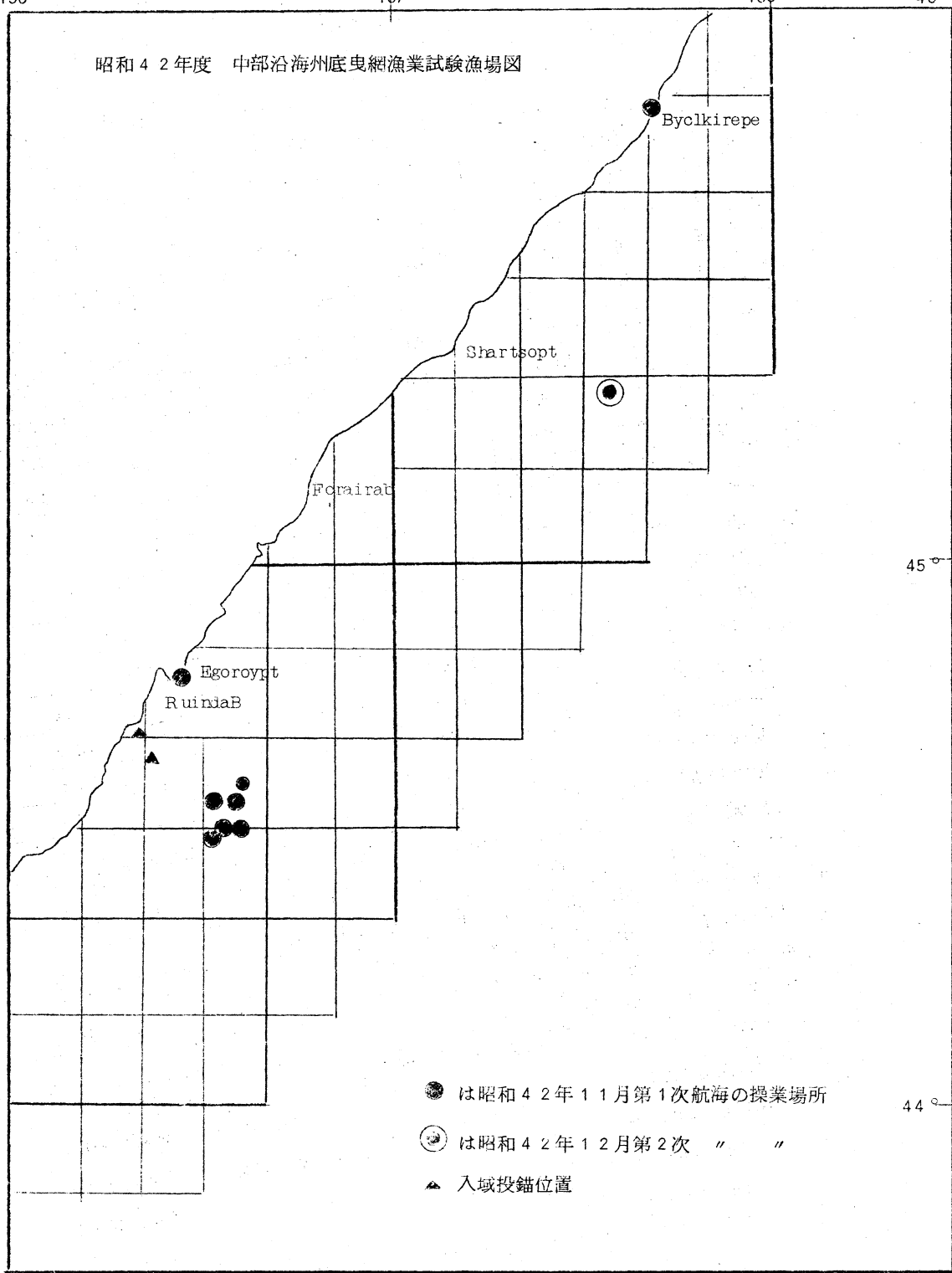
136°

137°

138°

46°

昭和42年度 中部沿海州底曳網漁業試験漁場図



45°

44°

区 分	月 日 回 数	11月 19日			11月 20日	
		1	2	3		1
漁 場	緯 度	44-29	44-30	44-30	44-30	44-32
	経 度	136-31	136-32.5	136-36	136-31	136-33.5
	水 深	280	400	290	220	230
	底 質	S	S	S	S	S
気 象	天 候	C	B C	B C	B	C
	風 向	NNW	NNW	NNW	NNW	N
	風 力	3	3	5	6	3
	気 温	-3.0	-8.0	-8.0	-10.0	-3.0
	気 圧	1,031	1,025	1,026	1,025	1,021
海 況	水 温	上 層	3.5			2.4
		中 層	2.9			1.4
		下 層	1.0			0.9
	透 明 度					
	潮 流 向					
	潮 流 速					
漁 法	曳 網 長	10.5丸	"		"	"
	投網開始時	08.30	10.50	13.00		7.00
	投網終了時	09.00	11.05	13.15		7.25
	網待時間	30	20	20		25
	曳網方向	S	S	S		SSZ
	曳網時間	15	15	15		15
	揚網終了時	10.30	12.00	14.30		8.50
漁 獲 物	マ ダ ラ	1箱	1箱	2箱		8
	スケソウ	小 量	小 量	小 量		1
	ナメタカレイ	小 量	"	"		1
	ホ ツ ケ	小 量	"	"		小 量
	ハ ツ メ	小 量	"	"		
	ムジナカレイ	投 キ	投 キ	投 キ		投 キ
記 事	附近に操業船なし				終日荒天	やゝ陸寄りに
	第1回	280 ~ 260 m			操業断念	第4回と第5
	第2回	400 ~ 500 m				イルカ遊泳す
	第3回	290 ~ 560 m				

11月 21日				11月 22日	
2	3	4	5	1	2
44-34.5	"	"	"	44-35	"
136-34	"	"	"	136-37	"
200	200	210	210	220	220
S	S. St	S. St	S. St	S. St	S. St
B C	B C	B	B	B	B
N	N	N	N	NNW	NNW
2	2	2	2	3	3
-3.0	-3.0	-3.0	-5.0	-5.0	-3.0
1,021	1,019	1,019	1,020	1,025	1,026
"	"	"	"	"	"
9.30	11.20	13.20	15.00	7.23	9.05
9.45	11.35	13.35	15.20	7.40	9.20
15	15	15	15	15	15
SSZ	"	"	"	SSZ	"
15	15	15	15	15	15
11.00	13.10	14.45	16.40	8.50	10.30
20	3	3	12	12	5
5		1	1	5	2
1	1	1	1	小 量	小 量
41	34	3	28	小 量	小 量
1					
調査地点を移し、第2回以後好漁となる 回疆網部破損 るを認む				無線にて鰺ヶ沢局と連絡をとりながら帰途につく	